

ひょうごの遺跡

平成12年5月31日発行
兵庫県教育委員会
埋蔵文化財調査事務所
神戸市兵庫区荒田町2-1-5
〒652-0032 TEL 078-531-7011
FAX 078-531-7014
ホームページアドレス
<http://www.hyogo-edu.yashiro.hyogo.jp/~maibun-bo>

速報—平成11年度の調査成果—

埋蔵文化財調査事務所では平成11年度も県下各地で多くの発掘調査をおこないました。今回はそのうちの主要な9遺跡を紹介します。

淡路島を望む浜辺の墓地

舞子浜遺跡（神戸市垂水区）

平成11年5月におこなった明石海峡大橋直下の舞子浜遺跡（神戸市垂水区）の発掘調査で、2基の埴輪棺が出土しました。円筒埴輪などを組み合わせて造られた埴輪棺は、近畿地方では95遺跡で確認されています。現在、県立舞子公園として整備されているこの浜で、埴輪棺が最初にみつかったのは昭和35年のことです。その後、神戸市教育委員会などの発掘調査によって15基の埴輪棺が出土し、公園一帯が古代の墓地であることがわかりました。この遺跡の東側1kmには、県下最大の前方後円墳である五色塚古墳があります。この古墳には多くの円筒埴輪が並べられており、舞子浜遺跡の埴輪とよく似ています。舞子浜遺跡に葬られた人々は、これらの埴輪と密接に関わっていた人たちなのかもしれません。淡路島を望み、明石海峡大橋が架けられたこの海岸に、古墳時代に葬られた人たちはいったい何を語ってくれるのでしょうか。



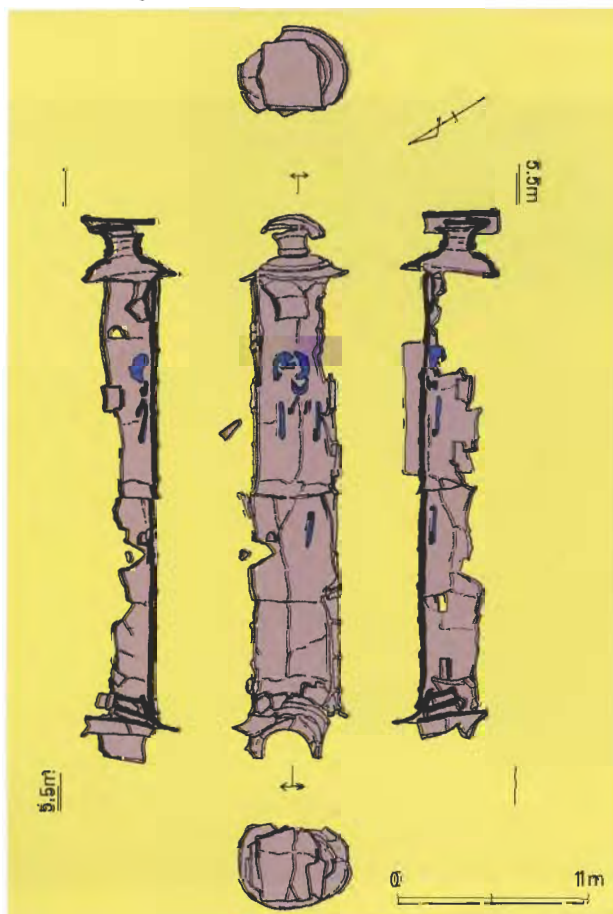
砂浜に埋もれていた埴輪棺（1号棺）

1号棺

1号棺は^{ひれ}鱗付き円筒埴輪を東側に、円筒埴輪を西側に使い、2つを入れ子状に組み合わせて棺としています。棺は全長270cm、直径40～45cmと細長いものとなっています。棺の東端には笠の直径60cmの蓋形埴輪をはめ込み、その外側に適当な大きさに割った円筒埴輪片3枚を立てて蓋をしています。西端には、^{あさがお}朝顔形埴輪をはめ込み、東端と同じように穴がふさがる大きさに割った円筒埴輪を3枚たてて^{ふた}蓋をしています。埴輪と埴輪のすき間には粘土をつめて、棺全体を密閉しています。透かし孔も砂が中に入らないように、埴輪片で蓋をして粘土ですき間を埋めています。鱗付き円筒埴輪の鱗は棺の底に敷いた粘土に、垂直に突き刺して固定されていました。埋葬の時に丁寧に棺を設置した様子がわかります。

1500年以上の時を経た棺の中は砂で充満しており、副葬品などは見つからず、わずかに人骨が残っただけでした。埋葬された人は、頭を東側にして仰向けの姿勢をとっていました。

棺の両端をふさいでいた蓋形埴輪と朝顔形埴輪には朱が塗られており、古墳の埋葬方法との共通点がみられます。



この人は？ 一歯と骨から分かることー

身長150～155cmの男性で年齢は30歳代。当時としては少し小柄な体格ですが、筋肉が発達した人でした。顔つきはのっぺりとしており、弥生時代以降一般的な顔立ちです。出土した下顎には歯が16本全部残っていました。歯から生前の健康状態がわかり、この人は順調に成長してきたようです。しかし、左の第3大臼歯がひどい虫歯にかかっており、生前は歯の痛みに悩んでいたのかもしれません。

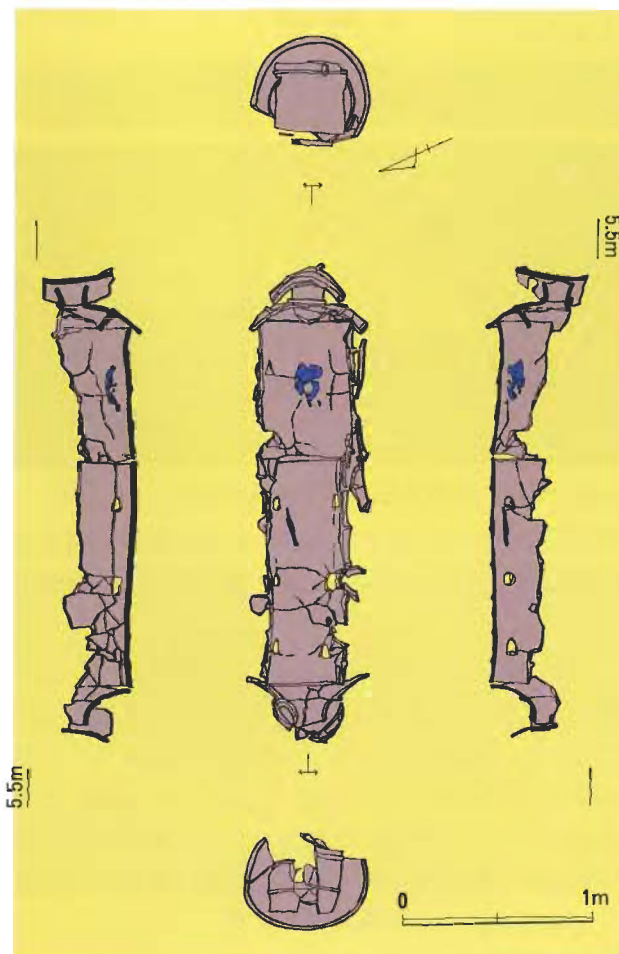


1号棺検出状況

2号棺

2号棺は円筒埴輪を東側に、^{だえんとう}楕円筒埴輪を西側に使い、2つを合い口状にして棺としています。棺の全長は258cm、直径40cm前後となり、1号棺よりわずかに短いものとなっています。棺の東端は笠の直径62cmの蓋形埴輪を被せて、外側には割った鱗付き円筒埴輪を立てて蓋をしています。西端には、朝顔形埴輪の口縁部をかぶせ、その外側に円筒埴輪を割ったものを立てて蓋にしています。透かし孔も埴輪片で蓋をされていました。しかし、1号棺のように、埴輪のすき間を粘土で埋めるようなことはしていませんでした。透かし孔の埴輪片の位置が西方向にずれていたため、西側の楕円筒埴輪を設置した後、何かの理由で東側に棺を動かしたことが分かりました。1号棺と同じように蓋形埴輪には朱が塗られています。遺物は、棺外から鉄製刀子が1点出土しました。棺内には砂が充満していて、人骨がわずかに残っていました。埋葬された人は、頭を東側にして、仰向けに寝かされていました。

西側の棺に使われていた楕円筒埴輪は珍しいもので、神戸市西区の白水瓢塚古墳の楕円筒埴輪との類似性が指摘されています。



この人は？ - 歯と骨から分かること -

身長150～155cmの男性で40～60歳。小柄な体格のこの人も、筋肉の発達した人でした。歯にはエナメル質減形成がみられ、4・5歳のころに病気が栄養失調にかかったようです。生きていた時はひどい歯槽膿漏になっていたようで、下顎の左第1・第2・第3大臼歯が死亡時には抜けていました。1号棺の人物と同じように、生きていたときは歯の痛みに悩んでいたのかもれません。



2号棺検出状況

弥生時代の水田と中世の地震跡

芸術文化センター（仮称）建設に先立ち調査をしました。高松町遺跡は、武庫川右岸に位置します。西宮市内で初めて、弥生時代終わり頃（約1800年前）の約1万㎡におよぶ水田跡が検出されました。水田は、高さ10cm、幅20cm程度の畦^{あぜ}で大小に区画されていました。地形が低い南東にゆくほど、区画が大きくなる傾向がみられました。水田面には足跡が多く残されており、農作業をしていたと思われるものもあります。これらの水田は、洪水で埋まったものと考えられます。



畦で区切られた水田

たかまつちょう
高松町遺跡（西宮市高松町）



地層を変形させた液状化現象

また、1596年の伏見大地震の痕跡が良好な状態で確認されました。多くの噴砂と共に、地中での地滑りという珍しい液状化現象も観察されました。大きな被害をもたらしたものと考えられます。

高松町遺跡は、地震や洪水の被害を受けながらも、農業を続けた人々の姿が見てとれる遺跡と言えるでしょう。

縄文人の生活の場

関宮町の鉢伏高原一帯は、県下でも縄文時代の遺跡が多い地域として知られています。農道の整備事業に伴って、鉢伏高原の南縁部に位置する外野波豆遺跡・外野柳遺跡の発掘調査を行いました。

外野波豆遺跡からは、^{おとしあな}陥穴や貯蔵穴と思われる穴が18基出土しました。陥穴と推定できる穴は、直径が1m前後で深さは50cm～1m程度のものです。穴の底には、直径15cm程度の穴があり、上向きの杭^{さかもぎ}（逆茂木）を立てた跡と推定されます。同じ穴でも、深さが20～30cm程度と陥穴よりも浅いものは、貯蔵



陥穴の断面（外野波豆遺跡）

と の ほ ず と の や な ぎ
外野波豆遺跡・外野柳遺跡（関宮町）



焼礫集石遺構（外野柳遺跡）

穴の可能性があります。これらの穴からは、縄文時代前期末（大歳山式^{おおとしやま}）～中期（鷹島式^{たかしま}）の土器が出土しています。

外野波豆遺跡の西側に隣接する外野柳遺跡からは、焼けた石が、直径約1mの範囲でまとまって見つかりました（焼礫集石遺構）。浅い穴を掘ってその中に焼いた石を置いたもので、調理のための施設と考えられます。この遺構の周囲からは、縄文時代早期の土器片（押型文土器など）や石器（磨石^{すりいし}）が出土しています。

新発見の戦国時代の館跡

JR山陽本線宝殿駅から北西1.5kmほどの低位段丘上に遺跡があります。この辺りは加古川のデルタ地帯を見晴らすことのできる高台で、多くの遺跡が知られています。奈良時代の寺跡である「中西廃寺」には塔の心礎があって、塔に使われていたとされる石造品が、近くの「石井の清水」と呼ばれる湧水の井戸側に転用されています。今回の発掘調査でも寺に関連した軒平瓦や円面硯（陶製の硯）といった遺物が出土しました。



館の堀

なかにしだい ち
中西台地遺跡（加古川市東神吉町）



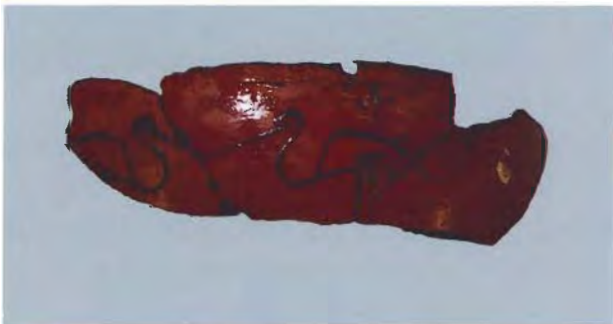
堀の断面

遺跡の約300m東には羽柴秀吉の三木城攻めの際に陥落した神吉城があり、合戦の様子も語り伝えられています。県道改良に伴う今回の調査ではそれと同時代の館の堀が見つかりました。堀は幅4m、深さ1.4mの規模をもち、西北・西南のコーナーで直角に折れ曲がっているので、半町（約50m）四方の堀に囲まれた館が復原できます。この館の主や神吉城との関係など詳しいことは判りませんが、文献に残されていない館が発見されました。

戦国時代山名氏の城下町

「そば」で有名な出石の城下町は、江戸時代の情緒にあふれた街並みが残っています。この仙石氏の出石城下から北へ1.5kmほどの所に、室町時代から戦国時代にかけて但馬の守護であった山名氏の本拠地「此隅山城」があります。麓には戦国時代（16世紀）の城下町が開けており、県道改良に伴う発掘調査で当時の生活を伝える数々の遺物が出土しています。ここではその中から2点を紹介しましょう。

右の写真は20～30枚の素焼きの小皿と一緒に埋納されていた花崗岩の自然石で、表面に墨で「三界



鳥を描いた漆椀

みやうち
宮内遺跡（出石町宮内）



文字を書いた石

（バン）大日□ 何□と書いてあります。読めない部分があり意味もよく判りませんが、中央の上に梵字を配しているところからみて、地鎮や供養といった意味合いをもつものでしょう。

左の漆椀は朱漆の上に黒漆で、2羽の鳥が羽を開いて嘴をつつき合う様子を手馴れた筆遣いで描いています。この鳥がツルかサギか、はたまた国の天然記念物のコウノトリなのか議論が分かれるところですが、皆さんも豊岡市のコウノトリの郷公園へ行って見比べてみて下さい。

車窓から見える集落遺跡

加古川駅周辺ではJR山陽本線の高架事業に伴う発掘調査が続けられており、別府川左岸の段丘上に位置する坂元遺跡では飛鳥時代～奈良時代（7～8世紀）と弥生時代中期～後期（紀元前2世紀～1世紀）の集落跡を発掘調査しました。

調査した範囲内では飛鳥時代～奈良時代の掘立柱建物が16棟見つかっており、家を繰り返し建て替えていた様子が判ります。また置きカマド・煮炊き用の甕の他、イイダコ壺・漁網用の土錘といった出土品から、海に近い村落の暮らしが伝わってきます。



JR山陽本線と遺跡

坂元遺跡（加古川市野口町）



弥生時代の土器

同じ野口町内には、古代の山陽道に面して古大内遺跡（賀古^{かこのうまや}駅家）・野口廃寺といった役所や寺跡の遺跡がありますが、やや街道から奥まった坂元遺跡はそれらと同時代の一般のムラと言えましょう。

弥生時代の遺構としては土器を一度に棄てた土坑（弥生中期）や、幅3.8m、深さ1.6mの大きな溝（弥生後期）などが見つかりました。今回の調査範囲内には住居跡などが無かったので、集落の中心部分はまだこの周辺にあるのでしょうか。

市街地に埋もれた堀

伊丹停車場線の修繕工事に伴って、JR伊丹駅前で平成4年から行なわれてきた調査も今回で最後となりました。今回の調査地区は同線の西端、川西池田線との交差点に隣接する部分です。

調査の結果、伊丹郷町期の第1面と、有岡城期前後の第2面を確認しました。第1面では町家^{うめがめ}や酒蔵が建っていたことが明らかになり、礎石・埋甕・便所などの遺構が検出されました。第2面では武家屋敷跡に関連する溝や建物を検出し、西端で幅6m、深さ3mの堀の存在が確認されました。



有岡城期前後の溝

伊丹郷町・有岡城跡（伊丹市伊丹）



石組溝（大溝筋）

この堀は以前からその存在が注目されてきた大溝筋と考えられ、同筋の初めての検出です。なお、この堀は江戸前期には埋められて、その上に石組溝が造られていることが今回の調査で判明しました。このことから、堀が大溝筋と呼ばれ習わされる由来が近世前期以降であることも明らかとなりました。

播磨灘を望む弥生の村跡

弥生時代中期後半の尾根上に築かれた高地性集落と呼ばれる集落です。山陽自動車道新宮インターチェンジ建設に伴い、堅穴住居跡14棟と狼煙台のろしだいと思われる焼土坑1基と溝などを調査しました。

この遺跡の特徴は、遺跡からの眺望にあります。南側には権現山を越えて播磨灘が望まれ、同時期の遺跡である家島諸島男鹿島の大山咋神社遺跡たんが おおやまぐいを見ることができます。東側は母集落である佐江遺跡さえなどの揖西平野を見渡せ、さらに片山東山遺跡を望むことができます。この遺跡の時期は、邪馬台国以前の緊張が漂う時期で、戦争などの連絡を狼煙のろしによって



空から見た遺跡

たけはらなかやま
竹原中山遺跡（龍野市揖西町）



弥生時代の遺構

伝えたと考えられているものです。播磨灘の遺跡から揖保川流域の遺跡へと伝達できる見晴らしの良い地点を選んだ理由はここにあると思われます。

石器づくりを行っていたようで、各住居跡からサヌカイトの石屑（チップ）が出土しています。しかし完成した石器はほとんど使ってしまったのか、大型の打製石包丁が出土しているだけです。サヌカイトの原石はいくつか住居跡床面から出土しています。住居跡の形態は円形から方形に変化すると言われていますが、両方の住居跡が認められます。円形住居跡の方が大型です。

ほぼ完全な状態で見つかった古代の炭窯

おおじんぼら
大陣原窯跡（龍野市）

今回山陽自動車道新宮インター建設に伴い、製鉄・鍛冶に用いる、高い温度で燃える白炭という炭を専門に生産するための炭焼き窯を調査しました。。以前にも同じタイプの炭窯が見つかっており、古代、この地域一帯が製鉄に深く関わっていたようです。

須恵器など土器を焼く窯は斜面をまっすぐ登るように作られますが、この炭窯は斜面に対して斜めに掘削してあるため、床面の傾斜も5～8度と緩やか



炭窯全景（並んでいる坑は取り出し口）



窯の中から山側を見る（奥の坑は煙道）

です。土器を焼くのと違う温度調整が必要だったのでしょう。全長約11m、高さ、幅は70cmです。粘土で作った天井がありましたが、すべて崩れ落ちていました。内部の壁面は、高い温度を受けて真っ赤に焼けています。麓側に火を付けるための焚口たきぐち、山側には煙を逃がすための煙道、谷側には焼き上がった炭を掻き出すための穴が、11カ所作ってあります。

平成11年度に調査した遺跡 (28・29は震災復興関連の調査)

番号	遺跡名	所在地	事業名	遺跡の内容
1	市辺遺跡	水上郡水上町	春日和田山道路Ⅰ	奈良時代の官衙
2	横田遺跡	水上郡水上町	春日和田山道路Ⅰ	弥生時代～中世の集落
3	横田北古墳群	水上郡水上町	春日和田山道路Ⅰ	古墳時代の古墳
4	沢野遺跡	水上郡青垣町	春日和田山道路Ⅰ	古墳時代～中世の集落
5	平松八幡神社跡	水上郡春日町	春日和田山道路Ⅰ	平安時代の窯跡
6	栗鹿遺跡	朝来郡山東町	春日和田山道路Ⅱ	弥生時代～中世の集落
7	柿坪遺跡	朝来郡山東町	春日和田山道路Ⅱ	弥生時代～古墳時代の集落
8	芝ヶ端遺跡	朝来郡山東町	春日和田山道路Ⅱ	弥生～中世の集落
9	芝ヶ端古墳	朝来郡山東町	春日和田山道路Ⅱ	古墳時代の古墳
10	筒江大垣遺跡	朝来郡和田山町	春日和田山道路Ⅱ	古墳時代～中世の集落
11	高松町遺跡	西宮市	芸文センター建設	弥生時代の水田
12	板木遺跡	神戸市西区	神戸西バイパス	中世の集落
13	豆腐町遺跡	姫路市	J R 立体交差事業	弥生時代～奈良時代の集落
14	南畝町遺跡	姫路市	J R 立体交差事業	弥生時代～古墳時代の集落
15	西延末遺跡	姫路市	J R 立体交差事業	弥生時代～古墳時代の集落
16	東南遺跡	揖保郡太子町	街路龍野線	縄文時代～中世の集落
17	外野波豆遺跡	養父郡関宮町	関宮西部農道	縄文時代の集落
18	桂ヶ谷遺跡	篠山市	丹波並木道中央公園	弥生時代～古墳時代の集落
19	桂ヶ谷古墳群	篠山市	丹波並木道中央公園	弥生時代の墳墓
20	平瀬遺跡	佐用郡上月町	国道373号線改良	弥生時代～中世の集落
21	伊丹町・有岡城跡	伊丹市	伊丹停車場線	中世～近世の城郭・町屋
22	中西台地遺跡	加古川市	高砂北条線改良	弥生時代～中世の集落
23	村森遺跡	水上郡山南町	篠山山南線	中世の集落
24	宮内遺跡	出石郡出石町	町分久美浜線	中世の城下町
25	坂元遺跡	加古川市	J R 立体交差事業	弥生時代～飛鳥時代の集落
26	喜住西遺跡	津名郡五色町	鳥飼浦洲本線	弥生時代～中世の集落
27	楠・荒田町遺跡	神戸市兵庫区	健康財団新施設	弥生時代～中世の集落
28	南本町遺跡	伊丹市	尼崎港川西線	中世の集落
29	六条遺跡	芦屋市	芦屋西部地区区画整理	縄文時代の集落
30	大陣原窯跡	龍野市	新宮インター	奈良時代の炭窯
31	竹原中山遺跡	龍野市	新宮インター	弥生時代の集落
32	福住・横遺跡	加西市	山下筋東線	弥生時代の集落
33	諏訪城跡	朝来郡山東町	榎倉山東線	中世の山城
34	舞子浜遺跡	神戸市垂水区	舞子公園整備	古墳時代の古墳



姿を現した姫路駅の転車台 (豆腐町遺跡・姫路市)



城跡の堀切 (諏訪城跡・朝来郡山東町)



編集後記

今回は平成11年度に調査した遺跡のうち、春日和田山道路(北近畿豊岡自動車道)関係を除く主要な遺跡を紹介しました。この道路関係の調査では水上町の市辺遺跡や山東町の柿坪遺跡などで重要な発見がありました。これらの遺跡については次号以降で詳しく紹介する予定です。